

ボルボ車に試乗して スキーツアーや 冬グッズを当てよう

ボルボ・カース・ジャパンは、全国の正規ディーラーでボルボ車を試乗した人にしてきたグッズをプレゼントする「ウィンター試乗会キャンペーン」を07年1月31日まで実施している。

期間中に試乗すると、抽選で20組80人に、スキーやソリ引きリレー、雪玉ストラックアウトなどの雪上運動会、ディナーパーティが楽しめる「斑尾ウィンタースポーツツアー」招待(1泊2日)をはじめ、天体望遠鏡やオイルヒーター、防寒フリースウエアがプレゼントされる。

●発表1ツアー当選者には直接通知。グッズは賞品の発送で代える
●ボルボ・カース・ジャパン
0120・55・8500
www.volvocars.co.jp/



●スキーツアーやスウェーデン生まれのグッズをゲットしよう

レースなどで活躍する もてぎエンジェル の第9期生を募集!

ツインリンクもてぎは、同サーキットで行われるレースやイベント

トで活躍するイメージガール「ツインリンクもてぎエンジェル」の第9期生を募集している。

インディジャパンやモトGPなどの国際レースから気軽に参加できる草レースまで、各種モータースポーツイベントの舞台になるツインリンクもてぎの魅力にPRし、レースではスタートや表彰式でアシスタントも務める女性を募集している。第9期生に選ばれた人には3万円分のギフトカードと、ツインリンクもてぎの年間入場フリーパスが贈られる。

●応募資格18歳以上で明るく健康的で活発な女性(国籍は不問)

●募集人数14人(予定)

●応募方法1身長、体重、スリーサイズ、靴のサイズを明記した履歴書と、応募のきっかけや理由を書いた自己PR作文(400文字以内)、カラー写真2点(全身と上半身)、免許証、パスポート、住民票のいずれかのコピーを事務局に郵送する

●応募先1160・0023
東京都新宿区西新宿7-16-14
ミクラ西新宿3階 アクセルイン
ターナショナル内「ツインリンクもてぎエンジェルコンテスト事務局」係

●締め切り12月25日(必着)

●発表1ツインリンクもてぎのホームページで



●もてぎエンジェルになってレースやイベントを盛り上げよう!

●ツインリンクもてぎエンジェルコンテスト事務局
03・5332・5173
www.twinline.jp/

フロアマット名を 「カロ」に変えた 記念のプレゼント

車種別専用タイプのオーダーメイドフロアマットを販売しているカロは、同社製品のブランド名を「カロイズム」から「カロ」に変更し、同時にウール調のクレスト、クローネ、ウーリー、フラクシーの4製品の耐久力と防音効果を向上させた。その記念キャンペーン「カロ・原点から一新」を12月25日まで行っている。

期間中に、カロブランドのフロアマットを購入すると、もれなくカロオリジナル革携帯ストラップがもらえるほか、ブランド一新に合わせて、各製品の詳細情報や適応車種検索、装着例紹介などのコンテンツを充実、リニューアルしたホームページのキャンペーンサイトのアンケートに答えると、抽選で50人に同じストラップがプレゼントされる。

●カロ 03・337
2・6340
www.karo1980.jp/



●製品のエンブレムをモチーフにした本革ストラップ(上)をプレゼント



あるいは裏切り という名の犬



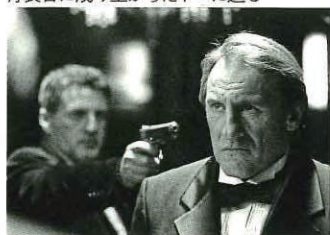
●結束堅いレオが率いるチームは、ドニと激しく対立する

●服役中に、レオは最愛の妻カミーユを失ってしまう



何とも長くて意味深な日本題だが、原題は「36 QUAI DES ORFÈVRES = オルフェーヴル河岸36番地」。すなわちフランスの首都パリのシテ島にあるパリ警視庁の所在地なのだ。その警視庁の警視で、仲間の信頼が厚い正義漢のレオ(ダニエル・オートゥイユ)と、権力志向が強いドニ(ジェラルド・バルデュ)の2人はかつて親友だったが、同じ女性カミーユ(ヴァレリア・ゴリノ)を愛して、彼女がレオと結婚したために友人関係が崩れ、今はライバルとして次期長官の座を競っている。1年半に7件、9人が殺され、200万ユーロが強奪された現金輸送車襲撃事

●真相を突き詰めたレオは、警視庁長官に成り上がったドニに迫る



件の犯人逮捕のための特別体制が敷かれ、レオが指揮官に任命される。それが不満なドニは強奪犯逮捕の現場で暴走して銃撃戦となり、主犯に逃げられてしまう。その失態でレオに決定的な差をつけられたドニは、ある殺人事件に絡むレオの致命的な失敗をつかんで密告。レオは共犯として投獄される。服役中に、妻カミーユが死んでしまうが、レオは獄中で悲嘆に暮れるしかない。7年後に出所したレオは、単独でカミーユの死の真相を探り当てる。そこには今はパリ警視庁長官になったドニの影が浮かぶ。宿命の2人が対決する

結末は?
夕々のフランス映画。実話に基づく骨太な演出は、かつてのフィルムノワールの復活とも言える香りが漂う。その昔のノワール映画より色調は明るい(カラーだから……というわけではない)が、いまいち粋(いき)さの味付けが足りないのは惜しい。とはいえ、大人の味がたっぷり楽しめ、見応え十分。そして、60年代前半のフランス映画を楽しんだオジサンたちには、ミレーヌ・ドモンジョの衰えぬ(うそ!)美ぼうと健在ぶりがうれしいのでは?(シネ魔)

●CARS in MOVIE●

フランス映画だから、ブジョーのバトカーやルノーの護送車はもちろん、街を走るのもフランス車がほとんどだが、なぜかシトロエンが見当たらない。主人公レオの愛車はブレラ面のアルファ156?セダン。服役7年後に出所したレオのクルマはブジョー906に変わる。レオの妻カミーユの愛車は白いMINI。そのほか、ベンツのCLやワゴン、BMW330なども見られる。珍しいのはダッジのピックアップ「ラム」が登場する。